

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	にじいろ保育園南水元
施設所在地	東京都葛飾区南水元1-12-6
法人名	ライクキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

かがく

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園では、遊びや生活の中で「なんで?」「どうして?」と身の回りの現象に興味を示し、試してみたり比べたりする子どもの姿が多く見られる。こうした園の環境や子どもの関心を生かし、実際に手を動かしながら試し、考え、発見する過程を大切にしたいテーマとして「かがく・まなび」を設定した。

2. 活動スケジュール

R7.4月-R8.3月

空気を圧縮して前方に飛ばす。段ボール箱を用いて行う。目には見えない空気が、ドーンと音を立てたり、的を倒したりする事で、子どもたちは空気の存在や力を実感できます。

鏡に映る自分やものの変化に気付く。反対文字の時計を見て日常のように時計が見えるのはどうしたらよいか。を問い意見交換をする。

ワークシートを使い文字や数字に興味を持てるような活動をする。

ゆらゆらバランス人形を使って重心を知る。

ハンカチ、ミニ下敷きを使って静電気の仕組みを知る。

とびだすペン、とびだすシート、とびだすめがね、色あそびセットを使って色の不思議を楽しむ。

鏡を使って不思議な世界を体験する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【準備物】 カラーポリ袋、ストロー等

【環境設定】 誤飲やけがの危険がない素材を選び、広さや動線にも配慮。水やスライムなどを扱う場合は、汚れてもよいスペースやエプロンを用意し、安心して試せる環境を整える。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

空気や鏡、磁石、ロケット、スライム、錯視、摩擦、振動、静電気、色、立体視、かがみなど、さまざまな物体や素材、現象に触れながら、その変化や不思議さを楽しみ、実験を通して得た気づきをレポートにまとめたり、自分の言葉で発言したりする活動を行う。また、ドリルを用いて文字や数字を書く練習にも取り組み、その過程で正しい姿勢や鉛筆の持ち方を身につけ、基礎的な学習習慣の定着を図る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

導入では、時計のイラストが左右反対になっている紙を掲示し、「これ、何か変じゃない?」と問いかけると、子どもたちはすぐに「反対になってる」と気づき興味を示した。そこで「どうしたら元にもどるかな?」と考える時間を設ける。「裏からみる」「さかさにする」等意見が出る。「鏡」という発想につながり、実際に鏡を使って確認する活動へ展開した。最後には一人ひとりが鏡と人形を使って自由に試す時間を設けた。鏡の間に人形を置くと数が増えて見えることに気づき、鏡の間隔や角度を変えながら繰り返し実験を楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「なんでこうなるの?」「もっとやりたい」という声も聞かれ、知的好奇心が自然と引き出されていた。あそび感覚で体験しながらも、その中には「鏡は光を反転する」「映る向きが変わる」といった科学的な気づきが含まれており、楽しさと学びが一体となった活動になったと気づいた。子どもたちが自ら鏡の角度を変えて試行錯誤する姿も見られ、主体的に関わる様子が印象的だった。